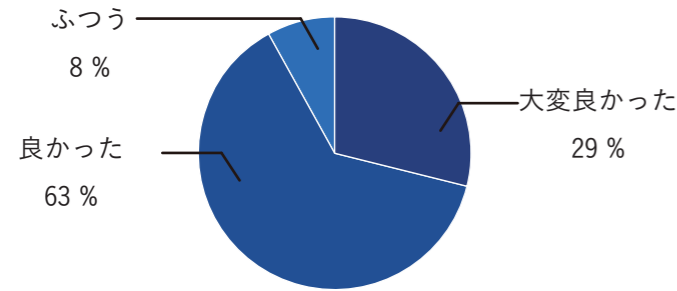


アンケート

満足度



第1回目同様、参加者の多くが「大変良かった」または「良かった」と回答いただきました。意見を出しやすい環境がよかったとの声があり、2回、3回と継続することでよりお互いのことを知り合える場になってきたのではないかと思います。

ワークショップで印象に残ったこと

町について感じていることは世代によってもっと違いが出ると思ったが、基本的に同じだと思いました／柔軟なアイデアがたくさん出ていて、少し前向きな気持ちになれました／自分の理想の暮らしから町の施策に発展する流れが分かりやすく、一人ひとりから意見が出やすかった／ワーク居酒屋、フィットネスクラブ、全てにおいて交流だと感じました／意外と町民のみなさんが起業、繋がり、趣味、集まれる場所など私同様に関心があることに驚いた

理想の暮らしを実現するために大切にしたいこと、必要なこと、気づいたこと

自分の暮らしも可視化することが大切だと気づかされました／田舎ならではの気持ちはある気がするが、人の繋がりが一番だと思いました／住民各自が自分の役割を見つけやすくすることでモチベーションも活動人口もアップするように思います／外からの視点も大切だが、今いる住民たちが協力していいまちづくりができればいいと思った

その他

人口の少ない智頭でいかにエネルギーを集めるかが大切なのではないかと思います／自分にできることがたくさんあるなと思い、町が必要なことを発信できる自分でありたいと改めて思いました／来る人が固定しているので、新規の参加者ができればいいな

次回のお知らせ

2016年

第3回

12月8日(木)

時間: 19:00-21:30

場所: 智頭町総合センター 大会議室

総合計画づくりを町民のみなさんと進めていくために実施する総合計画策定ワークショップの第3回目となります。「未来の暮らしを良くするアイデアを考えよう」をテーマに、みなさんと一緒に智頭町の将来を考えていきます。これまでワークショップに参加していない方でも大歓迎です。参加の申し込みやご質問など、智頭町企画課までお問合せください。



studio-L

studio-L(スタジオエル)は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

〈問合せ先〉智頭町企画課

[住所] 〒689-1402 智頭町智頭2072-1 [電話] 0858-75-4112

わたしの智頭くらしを考える 山・ひと・暮らしラボ

智頭町総合計画策定プロジェクト
第2回智頭暮らしワークショップ

2016.10.20 THU

19:00 - 21:30

智頭町総合センター 大会議室

参加者35名

第2回 「理想の智頭くらしを考えよう！」

プログラム

- ・はじめに
- ・第1回ワークショップのふりかえり
- ・プレイクタイム&自己紹介
- ・わたしの智頭くらしを考えよう
- ・発表/共有

平成29年度から施行される今後10年のまちの指針となる第7次智頭町総合計画を住民のみなさんと一緒に策定していくプロジェクトがスタートしました。全3回のワークショップのうち第2回目は「理想の智頭くらしを考えよう！」をテーマに、自分自身の現在と理想の10日の過ごし方を見つめ直し、理想を実現させるためには、まちとしてどんな取組みがあればよいのかを考えました。

総合計画策定までの流れ

町民の理想の暮らしを総合計画に

第1回智頭暮らしワークショップでは、現在、取り組まれている町の取り組みを、より自分ごととして捉えてもらうために、町の事業を町民のライフステージにあわせて整理した表を用いて、自分の人生と智頭町での暮らしを考えてみました。そのうえで、町民一人ひとりがどのような暮らしを求めているのかを共有し、そしてその暮らしを実現していけるような計画づくりを目指しています。そこで、第2回智頭暮らしワークショップでは、智頭町でどんな暮らしがしたいのか、それぞれの理想の暮らしについて、1日の過ごし方に着目し、その暮らしを実現するために必要なことを話し合いました。

1回目 町の取り組みを自分ごととして把握

2回目 自分と町全体の理想の暮らし方を検討

ワールドカフェ



まず、ブレイクタイムでつくった理想の暮らし方を実現するために必要なことを「健康」「家族」「学び」「仕事」「仲間づくり」の視点から付箋に書き出しました。そして、ワールドカフェ形式で、各テーマに分かれて書いた付箋をもとに意見交換をしました。自分が理想に思っていることは、実は同じことを思っている人がたくさんいたり、共通の悩みを持っているなど、さまざまな発見がありました。町内で交流する機会を増やすことで、健康や学び、仕事に繋がっていくことが見えてきました。

ワールドカフェとは

カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、設定されたテーマについて楽しく意見交換をする手法のことです。テーブルに座るメンバーの組み合わせを変えながら、少人数で意見交換を繰り返すことで、あたかも全体で話し合ったような効果を得ることができます。

健康 健康に意識を向けた集いの場

特別なイベントやジムに通うのではなく、普段から気軽に運動ができると気軽に集まることができれば、そこで集まった人たちとの「仲間づくり」や「学び」に繋がるのではないのでしょうか。気軽に運動できる場づくりとして、新しいものを建てるのではなく既存施設を活用したスポーツの場づくりや、町内の飲食店にはカロリー表示をするといったアイデアがあがりました。

家族 子どもを気軽に預けあえる関係づくり

子どもたちが遊びやすい環境をつくるために、子どもの遊び場への移動手段の確保や穴場の遊び場情報の集約が必要であること、また在宅ワークや女性のためのシェアオフィスがあるとよいという意見がありました。智頭で暮らすのにどれだけお金が必要でどんな生活ができるのか、ライフプランナーや家族プランナーのアドバイスを受けられる制度など、智頭での暮らしをイメージできるしくみがあればよいなどの話がありました。

学び 町民が先生になり学びあう

町内には専門性が高かったり、様々なスキルを持った人がたくさんいます。そんな人たちに先生になってもらい、農林業などについて学んだり、その場に集まった人たちと交流できるような取り組みについて話し合いました。また、学校教育にまちづくりのプログラムがあったり、図書館に町民が描いた絵を展示できるようなプラスαの機能ができればよいといったアイデアもでました。

ブレイクタイム

現在と理想の暮らし方



自分の、現在の暮らし方を1日のタイムテーブルに書き込み、「健康」「家族」「学び」「仕事」「仲間づくり」の5つに分類しました。そうすることによって、自分の暮らしの中で充実している要素と不足していることを見つめ直しました。そして、10年後はどんな暮らし方をしたいか理想の暮らし方を同じように表現しました。自分が書いた1日の暮らしを同じテーブルに座ったひとたちと共有し、それぞれが智頭町でどんな暮らし方をしている、どんなことをやってみたいと思っているかなど、改めて知る機会になりました。

仕事 スキルと出会いが得られる仕組み

開かれたオフィスがあれば、異業種が集まったり、起業に悩んでいる人の相談にのったりすることができる仕組みや、起業は一世一代のことで敷居が高いというイメージを払拭できるようにお試し起業ができることなどの意見があがりました。理想の仕事スタイルを実現するには、役場だけが支援するのではなく、町民も一丸となり同じ方向を向いたまち全体での支援が必要になるということを話し合いました。

仲間 町民みんなが集える食事会

子育て世代や高齢者など、各世代ごとで集まれる場はあるが、世代を横断して交流できるような場は少ないです。同じ趣味を持った人同士が集まれるような場づくりや、智頭の豊かな自然環境を活かして縁側で会話を楽しめるような場づくりが必要だといったことを話しました。また、女性が元気だとまちが元気になることから、集落の会合や行事にしやすい環境づくりも必要だという意見があがりました。



意見抜粋



<健康>

- 規則正しい食事や若い時から運動する習慣をつくる
- 高齢者の健康や体力をつけるサークルをつくる

<家族>

- 家族プランナー（子育てや家計の相談役）の育成
- 若者が気軽に会え集える場づくり

<仕事>

- 家庭料理を持ち寄り惣菜やをつくる = 高齢者の仕事
- 継続した仕事ができるよう学び交流できる場づくり

<学び>

- 子どもも大人も一緒になって学べる場づくり
- 楽しい畑のやりかたを学ぶ

<仲間づくり>

- 若い世代が地域行事に参加できるような環境づくり
- 情報を共有し集える場づくり

